

縄文の里に移転新築、恋月荘を視察

諏訪地方で初めて、1974（昭和49）年に開設された特別養護老人ホーム「恋月荘」（窪田一雄施設長）が、境小学校近くの、縄文の里に移転新築しました。富士見町議会は6月議会最終日の9日、新しい施設を視察しました。

恋月荘は開設から今年で43年。

諏訪地方の高齢者介護の原点とも言うべき特養です。名称は当時の岩本節治諏訪市長が命名。小説と映画にもなった「月よりの使者」から名付けられました。運営は2014年4月、諏訪広域連合からJA長野厚生連富士見高原医療福祉センターに移管されました。

新施設は2階建てで、南斜面にあり、森と牧草地に囲まれた自然豊かな場所です。窓からは八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳が見渡せます。

施設内を案内していただいた木川充浩介護士長によると、移転が決まってから100回を超す会議を開き、介護しやすく入所者にやさしい特養を造ろうと準備を進めてきました。工夫の成果は、施設内の各所に見ることが出来ます。ユニットごとに設けた収納庫もその一つで、最新の洗濯機はその中にあり、消耗品の出し入れも便利になりました。全ての浴室と数個

「月よりの使者」から名付けられた特別養護老人ホーム



木川充浩介護士長兼副所長(左)から特殊浴室の説明を受ける町議

所の居室にはリフトを導入し、介護スタッフの負担を軽減しています。

木川さんは、入所者から「あの人たちは誰」と議員のことを聞かれ、「もうすぐここで一緒に生活する人たちだよ」と笑って答えていました。

特別養護老人ホーム「恋月荘」

全室個室の10ユニット。定員は特養入所90人、短期入所10人。短期利用者は山梨県方面の人が増加。県境を越えた施設として、諏訪湖周から八ヶ岳山麓まで広範囲をエリアとする「介護の拠点」としての役割を担っています。

議会傍聴者の感想

□町政を身近に感じた場面

町議会は、身近で、生活に直結する議案を審議する大切な場なのに、傍聴者が少ない。「議員任せになっている」と改めて感じました。いつも気になることですが、本会議場での質疑の内容がとても聞き取りにくい。まず、音響を改善してほしい。6月定例会の一般質問で小林町長が、「(町長選には)100%出るとも、出ないとも・・・」と余裕の表情で答弁された時、議場内全体で一瞬笑いが起こりました。この笑いが大事で、町政を身近に感じる場面でもありました。今後も議会が、開かれた環境で、町民を惹きつける場であってほしいと思います。(池袋 瀧澤 洋子 70代)

□狭い範囲の専門的な質疑は残念

本会議場での質疑内容の聞き取りにくさは、音響設備の経年劣化によるものと今まで考えていましたが、そうとは言い切れないようです。マイクの使い方、原稿の棒読みも気になります。あのくらいの文章ならば、流れを頭に入れ、重要事項を書き留めた紙を手元の机に広げ、適宜に目を落とせば、大筋の質問の枠をはみ出さないのではないのでしょうか。また、より感情を込め、抑揚を付けられないものか。傍聴者、ひな壇双方の視覚に訴える手法を取り入れてほしい。町政全般にわたる内容ではなく、ごく狭い範囲の専門的な質疑は残念です。回答者の一生懸命に聞き入る顔つきには、気が引き締まります。(立沢 市嶋 健一 75)

【編集後記】

3年ぶりの広報編集委員復帰です。分かりやすく、親しみやすい「議会だより」を目指して、「モニター制度」を取り入れました。お手元に届くころには、町長選の真っ最中(多分)でしょう。富士見町の新たな展望を切り開く、熱い戦いを期待しています。

(議会広報編集委員 小池 勇)

<富士見町議会へご意見をお寄せください>

【No.150】平成29年8月1日発行 発行：富士見町議会 / 編集：議会広報編集委員会

委員長：川合弘人 / 副委員長：矢島 尚 / 委員：五味高幸 小池 勇

〒399-0292 長野県諏訪郡富士見町落合 10777

TEL：0266-62-9403 FAX：0266-62-9320 E-mail：gikai@town.fujimi.lg.jp